

傘使い手作りアンテナ ひたちなか



ビニール傘にコイルを巻きアンテナ作りに挑む児童

枝川小で科学セミナー

【ひたちなか】日本国際賞などで知られる国際科学技術財団(本部・東京)の「やさしい科学技術セミナー」がこのほど、枝川小で開かれ、茨城大工学部の学生や大学院生らの支援を受けながら、4～6年生の全

で実施された。エレクトロニクス・情報・通信分野の研究で、2014年度に同財団の若手研究者支援助成金を受けた同大工学部助成の鈴木健仁（とよ）さんが講師を務め、鈴木研究室の大学生と大学院生計8人が児童の指導に当たった。

電波の特性を知るため、電子レンジを使って同量の水と油を温め、どちらが熱くなったかを測定する実験などを実施した後、児童は四つの班に分かれ、ビニール傘にコイルなどを巻き付けてアンテナを製作。校舎内外でラジオの電波をとらえる実験に取り組み、四つの班が全てラジオ放送の受信に成功した。

児童19人がビニール傘でアンテナを手作りし、電波を受信する実験などを体験した。同財団によるセミナーは県内では初めて。

セミナーは「ラジオの電波をつかまえる！ーわくわくアンテナ実験」のテーマ